

4 生乳の安全・安心の確保に向けた取組支援

■ 東讃管内酪農家 ■

(東讃農業改良普及センター 川地保弘、○大西 保)

●対象の概要

東讃農業改良普及センター管内における58戸の酪農経営については、経営規模は10頭～300頭程度、飼養形態も繋ぎ飼い・パイプラインミルク方式を始めフリーバーン・ミルクングパーラー方式と様々な飼養管理方法となっている。

円安の影響により飼料価格が高騰したまま推移しており、厳しい経営環境であるが、コスト低減に努めるとともに、安全で良質な生乳の生産・供給に取り組んでいる。

●課題を取り上げた理由

ポジティブリスト制度が平成18年に施行され既に7年が経過しているが、酪農家段階での生乳生産管理チェックシートへの記帳・記録が徹底されていないことが課題であった。また、牛乳乳製品が安全・安心であるためには、酪農家による生乳生産管理状況の点検は必要不可欠である。

このため、酪農家自らが生産管理の状況を点検し、生乳への農薬等の残留事故等を未然に防止できる体制を構築することを目標として、JA・行政・乳業メーカー等が一体となって推進指導にあたっていくこととなった。

●普及活動の経過

1 県域段階での取り組み

巡回指導において生乳生産管理チェックシートへの記帳・記録に対する評価基準が統一されるよう、平成24年度に安全・安心香川県地域協議会による「指導者検証用マニュアルの内容を踏まえた研修会」が開催され、県内の指導者の評価基準を統一した上で現地巡回を行うよう配慮した。

平成25年度においては、重点記帳項目の未記帳者への個別指導の徹底及び重点指導項目の記帳推進を主な活動内容として設定した。

また、良質乳生産に対する関係者の知識向

上のため、「牛乳の風味に関する講習会」に参加するとともに、畜産担当普及指導員打合せ会での意見交換等を行うことによる情報共有化を推進した。

2 検証チームによる巡回指導

関係機関（JA、乳業メーカー、家畜保健衛生所、普及センター）の相互連携により、年3回（9月、12月、3月）の巡回を行い、「生乳生産管理チェックシート」の記帳内容や生乳処理施設の状況を確認し、日々の搾乳作業や機械・施設の管理が適正に行われているか、巡回時に指摘した内容が改善されているかななどを点検・指導した。



記帳状況の確認

3 生乳処理室の美化・衛生管理向上への取組

このような巡回指導等を進めていく中で、酪農部会から記帳や良質乳生産に取り組んでいる酪農家に対して何か支援できないことがないかという要望が上がり、乳業メーカーが酪農家と共同で行っている「牛乳の価値向上に向けた取り組み」を酪農部会として活用することになった。この取り組みは、牛乳の価値を高めることを目的に生乳処理室・牛舎環境美化等を実践し、衛生管理に優れた酪農家を「良質乳生産牧場」として認定・表彰する制度である。

この活動により、巡回指導時に生乳処理室内の整理整頓、牛舎との隔離、美化（清潔さ）等の12項目について審査し、不適切な部分の改

善を促すなど、酪農家自身が取り組む良質乳生産への改善に対する啓発活動にもつながっている。

改善前



入り口に仕切りが無いため道路からパルタが丸見えになっている

改善前の生乳処理室

改善後



アルミサッシと網戸を取り付けた

改善後の生乳処理室

4 取り組み成果の報告

酪農家に対する記帳・記録・保管の重要性を理解してもらうための推進活動として、「良質乳生産牧場の表彰式と生乳の衛生管理等の報告会」を開催した。

この行事の中で新たに良質乳生産牧場に認定された牧場に対する認定ボードと継続認定された牧場へのステッカーの贈呈とともに、生乳処理室の美化・衛生管理の取組成果や改善事例の紹介が行われた。

普及センターからは、毎月3回行われている生乳検査成績書からのデータ活用方法について資料提供を行い、良質乳生産への取り組み支援を行なった。

●普及活動の成果

- 1 生乳生産管理チェックシートの記帳状況
年3回の検証チームでの巡回指導や日常に

おける農家指導等での声かけの結果、重点記帳項目については管内全農家での記帳が行われており、今年度の設定目標を達成できた。

しかしながら、重点指導項目については、改善が必要な農家が延べ6戸残っている。

2 良質乳生産牧場認定について

平成24年度までに25戸が認定を受けており、平成22年度から取り組みを開始した香川中央地区においては、生乳処理室の整理整頓や清掃、ミルカー・バルククーラの衛生管理、薬品の適正管理等の12項目について、3年間で162件の改善が確認された。また、大川地区でも24年度からの取り組みにより、1年間で90件の改善が確認された。

認定を受けた酪農家からは、「牛舎の整理整頓ができ、牛舎環境や作業効率が良くなった。早くから取り掛かっておけば良かった。」との声もあり、良質乳生産に向けた意識啓発につながっている。



認定ボード及びステッカー

●今後の普及活動の課題

安全・安心な乳製品を求める消費者に答えるため、乳業メーカーも取引基準を満たすだけでなくより良質な生乳を求めている。その現われとして、「酪農業は食品を製造する工場と同じなのに、品質管理が徹底されているとは言えない状況であり、消費者の目線を意識して改善に取り組んで欲しい」といった要望も聞かれているところである。

今後は、生乳生産管理チェックシートの全項目の記帳と記録内容の質の向上を図り、さらに良質な生乳の生産につなげていかねばならない。

そのためには、関係機関と連携して具体的な改善項目を明らかにした指導を行い、酪農家の意識啓発を進め、着実に品質管理ができるよう支援を継続していく必要がある。